

( 続紙 1 )

|   |  |    |             |
|---|--|----|-------------|
| 京都大学  | 論文 (地球環境学)   | 氏名 | Jane SINGER |
| 論文題目  | Examining the Roles of Multiple Stakeholders in Dam-forced Resettlement of Ethnic Minorities in Vietnam<br>(ベトナムのダム建設に伴う少数民族の移住における多層ステークホルダーの役割の考察) |    |             |
| (論文内容の要旨)   |  |    |             |
| <p>河川におけるダム貯水池は、現在においても世界的に様々な目的で建設が行われている。とくに東南アジアの開発途上国では、水力発電を主目的とするダム建設が数多く行われており、建設に伴う主たる環境問題のひとつに、建設地から移住を強いられる住民の生活や生業の劣化の問題がある。ダム建設の是非の問題とは別に、それに伴う環境への悪影響を抑制するためには、この移住の実態を把握し、より安定して環境劣化の小さい移住あり方の検討が求められる。</p> <p>本論文は、ベトナム山岳地域におけるダム建設に伴う少数民族の移住を事例として取り上げ、移住の過程及び移住者の生活と生計、移住計画に関わった関係者の意図や関与の実態を調査して、その要因を明らかにした。さらに、それを踏まえて、経済的な補償や支援以外の視点というこれまでの研究では十分ではなかった視点を加えて、関係者の果たすべき役割を中心に改善に向けた提案を行ったものである。論文は7つの章から構成されており、以下その内容を説明する。</p> <p>第1章は序論であり、まず、水力発電用ダム建設の世界の動向とそれに伴う建設地に住む人の移住のあり方に関する従来の取り組みを論じている。その上で、ベトナムにおけるダム建設の動向とその背景や関連要因をまとめ、論文で対象としたクアンナム (Quang Nam) 省のアヴォン (A Vuong) ダム (2003年着工、2006年竣工) とそれにより移住したカトゥ (Cotu) 族の概要を整理している。</p> <p>第2章は、事例対象としたダム及び地域の状況を明らかにし、関係者へのインタビューを中心とする研究手法をまとめている。論文では、移住後の生活と生計の安定に関わる非経済的な要因の考察を中心とし、1) 移住後の生活と生計の安定化の阻害要因、2) 移住後のコミュニティの生活質の向上をもたらす資源、3) 発電事業の便益の移住者への配分、4) 地域内外の様々なステークホルダーの移住者の長期的な安定性・持続性の向上への役割、の4つの課題を設定している。以下の第3章から第7章では、この4つの課題をそれぞれ考究し、結果をまとめている。</p> <p>第3章では、事例としたダム建設で移住した少数民族の4集落において、移住後に生産性の低い農地を割り当てられたことが生産・生活の不安定化と、保護された森林の農地化という環境問題を惹き起こし、さらに移住地自体の不適切さが、追加的な基盤整備を必要とする事態となっていることを指摘している。その上で、これらの問題を回避するためには、計画の当初から、移住する住民が移転に関する意思決定や移住地の選定に関わることが有効であることを示している。</p> <p>第4章では、移転後の2集落における生活の安定に関する調査を基に、各世帯への補償や支援に加えて、集落として持つ資産の活用を図る必要性を論じている。集落の社会文化的な資産の活用の視点から、移転後の生活や生産</p> |  |    |             |

の安定化には、移転の経済的補償や移転後の経済支援策に加えて、地域コミュニティのもつ伝統的な知識や経験の活用が、重要な働きをすることを明らかにしている。

第5章では、ダム建設に伴う住民の移転を、ダム貯水地の持続的な「統合的湖沼流域管理」構築の視点から考察し、不適切な土地の割り当てが、森林の違法伐採、汚濁物質の流出、地下水流動の変化など、流域の環境保全に関わる問題をもたらすこと指摘している。その上で、移住者がダム建設事業の受益者となることで、流域の環境保全にも寄与することの意義を明らかにしている。

第6章では、ベトナムにおける、ダム建設に伴う移住者の生活や生産の安定化や、移転計画への参画の改善に関わる3つの流れを論じている。第1は、環境サービスに対する支払い制度の活用による、発電事業利益の森林保護や移住者生活の調査であり、第2は、国際的な資金援助事業による、移住者の補償の補填や生活再建の支援である。第3は、ベトナム国内の非政府住民支援団体による移住者への計画的な保護森林の割り当てに関する提言である。論文では、これらの取り組みが、地方政府の不十分な施策を補完する重要な働きをすることを明らかにしている。

第7章は結論である。各章の概要と主要な成果を整理したうえで、さらに考察をまとめて、全体の結論として水力発電用のダム建設に伴う住民の移転に関して、住民を含めて、関与する様々なレベル、そして立場の人や機関のそれぞれ果たすべき役割をまとめている。そのうえで、事例考察に即して、それぞれの具体的に取り組むべき課題や留意点を提言としてまとめている。

なお、論文は、以上の7章に加えて、現地におけるインタビュー調査の詳細な記録が参考資料として付されている。

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

大規模なダム貯水池の建設が、周辺地域や河川流域の環境に与える影響は大きく、建設によって移住を余儀なくされる人々や集落が生じることは、ダム建設に伴う問題の中で大きな位置を占める。また、移転先の住宅や農地などの土地の割り当てのあり方は、そこで築かれる移住者の生活や生業の安定化と、流域の持続的な環境保全を強く規定する。この課題に関する従来の研究では、主に移転に対する経済補償と、移転後の生活再建のための財政的な補助のあり方の検討が中心であり、移転後の生活や生業の安定のあり方を非経済的視点から考察することは十分でなかった。

本論文は、こうした状況を鑑み、ダム建設の影響をとくに大きく受けていると思われる少数民族の移転を対象にして、これまでほとんど実態の解明がなされていないベトナム中部のクアンナム(Quang Nam)省ドンジャン(Dong Giang)県に建設されたアヴォン(A Vuong)ダムを取り上げて、少数民族カトゥ(Cotu)族の関係4集落の移転と移転後の状況を調査し、その実態と改善の方向を、関係者の役割を中心に研究したものである。その主な研究成果は以下のとおりである。

第一に、ダム建設に伴う移転の際に、居住地や農地の選定や配分が十分検討されず、移住者の理解が不十分なままになされることが、生産性の低い農地の割り当てと、保護森林の農地化という環境問題や、追加的な土木工事や再移転を惹き起こすことを明らかにし、これを回避するためには、移転計画への早い段階からの移住者の参画が有効であることを示した。

第二に、移転後のより安定した生活や生計の再建に必要な各家庭への経済的な補償や支援は、集落コミュニティの持つ伝統的な知識や経験を活用することで、より効果的となることを明らかにした。

第三には、ダム建設による移住者が、発電などのダム建設によってもたらされる事業の利益の直接の受益者となるようにして、生活や生計の再建を支援するようにし、流域の環境保全にも参画する仕組みが必要であることを明らかにした。

第四は、ダム建設に伴う移住者の生活や生産の安定化には、地域の関係機関だけでなく、海外の団体も含めて、様々なレベルや枠組みの関係団体の貢献が有効であることを示し、事例としたベトナムの場合の関係団体について、それぞれの役割と課題を明らかにし、取るべき対応を提言した。

以上のように、本論文は、ベトナムにおける水力発電用のダム建設に伴う住民の移転に関して、関係者の関与についての詳細な聞き取り調査を基にして、実態を明らかにするとともに、住民を含めて、関係する様々なレベルや立場の人と機関について、それぞれが果たすべき役割を明らかにした。この実態の分析と関係者の役割についての非経済的視点からの考察は、ダム建設時の環境影響評価や、少数民族地域を中心にして開発途上国の山間地の土地利用や資源利用のあり方など、今後の地域計画に役立つものとなり、地域計画学、地球環境学に寄与するところは大きい。

よって本論文は、博士(地球環境学)の学位論文として価値あるものと認める。また、申請者に対して、平成26年11月27日に専攻学術の学力に関する試問を行い、本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認し、平成26年12月4日、論文内容とそれに関連した内容について試問を行った結果、合格と認めた。

要旨公開可能日： 年 月 日以降